

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	ティエンラン郡総合病院の医療機材の整備及び医療技術の向上により、ティエンラン郡における妊産婦・乳幼児の死亡率が下がった。
(2) 事業内容	<p>(ア) ティエンラン郡総合病院の設備拡充 2019年6月19日に下記の機材につき譲渡を行った(別添1)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. AMBULANCE (TOYOTA) 2. ULTRASOUND SYSTEM (SIEMENS) 3. SURGICAL LIGHT (EMALD) 4. ELECTRIC SUCTION APPARATUS (YUWELL) 5. SURGICAL UNIT (LED SPA) 6. FETAL DOPPER (TRISMED) 7. INFANT OXYGEN MASK 8. RESUSCITATOR FOR INFANT <p>(イ) 技術・教育研修の実施</p> <p>①日本人専門家の派遣 2018年3月10日～11日 日本人専門家(2名) 救急車両および小型麻酔器、医療用手術照明灯に関する教育を行った。 2018年3月21日～25日 日本人専門家(小児科医1名、助産師1名) 小児科医における講義(別添2) 輸液コントロールや、小児救命に関する講義を行った。 小児科病棟では、肺炎、気管支炎、胃腸炎などの急性感染症が主な入院理由とのことであったが、その治療に際して脱水症の是正や注射液の投与ルートとしての輸液ルートを確保されている患儿が一人も見当たらなかった。設備と備品の貧弱さからくる無力感が大きく関わっていると考えた。したがって、単に設備や物品を供与するのみでは向上の期待は不可能であり、個々の医療者の知識技術の向上とモチベーションを上げる努力が必須であると考えた。 助産師による講義 現状、ティエンラン郡病院では、産後の母親に助産師が授乳指導を行っているが、継続したケアは実施されておらず、そのため母乳栄養がすすんでいないこと、乳腺炎などのトラブルに繋がっていることが考えられた。そのため、母乳栄養の利点、母乳分泌促進のための援助(乳頭・乳輪部のマッサージ法、乳房マッサージ法)、乳房トラブル時の対応法について講義を行った。 先天異常モニタリング 先天異常の評価法について、講義をおこない、乳幼児死亡を低下させるためにも、先天異常モニタリングの必要性を説明した。 2018年8月27日～30日 日本人専門家(3名)(小児科、産婦人科医を含む) 産婦人科医による安全な吸引分娩の講義をおこなった(別添3)。 小児科医による視察および講義を行った(別添4)。 2018年12月21日～22日 小児科医1名 小児科医における現状の視察をおこなった。 2019年6月18日～20日 助産師1名 医療機材の贈与ならびに、機器使用について説明をおこなった。</p> <p>②ベトナム人医師を対象とした本邦研修を実施(愛知県) 2018年7月10日～21日 ベトナム人 産科医2名、小児科医1名、助産師1名、看護師1名、口腔外科医1名を招聘し、総合病院産婦人科ならびに産婦人科病院にて、講義、研修をおこなった。</p>

<p>(3) 達成された成果</p>	<p>直接裨益者：病院産婦人科、麻酔科、小児科、外科医師、助産師ならびに看護師約 116 名 研修会出席者：60 名 間接裨益者：年間 1205 名の妊婦が出産するため、病院職員が研修を受けた 2018 年 4 月 1 日から 2019 年 6 月 20 日までの間に、出産を迎えた妊婦 1400 名である。</p> <p>ティエンラン郡総合病院では、母乳が不十分な場合、出生後 1 日目か 2 日目には母乳に加え、ミルクを追加しているとのことであった。新生児の体重減少率を計算し、-10%未満ではミルクは足さなくても大丈夫であることを説明した。まずは、母乳がでていなくても、新生児に直接哺乳をしてもらうことが重要であり、吸綴してもらうことでホルモン（プロラクチン）がでて乳汁が産生されることを産科医および助産師、看護師に伝えた。日本では、人工栄養児は母乳栄養児に比較して 4.83 倍乳幼児突然死症候群が発生すると報告されている。したがって、ティエンラン郡総合病院における乳幼児突然死症候群（原因不明の突然死）の予防効果があると考えられる。また、母乳育児には、母体免疫が作用するため、乳児の感染症予防にもつながり、重篤な肺炎を予防することが可能となると考える。こうした取り組みは、乳児死亡率の減少への効果は表れるものと考えられる。小児科医の講義実習により重篤な症状になりうる乳児の早期診断を可能にして、救急車の配備により症状別での重症度の見極めを確実にし、ハノイ市およびハイフォン市等の上位病院へ救急搬送できるようになった。これにより、小児分野での死亡は著しく減少させるものと考えられる。</p> <p>更に出生前に胎児診察等を行うため超音波機器を設置されたことにより、重篤な先天異常の早期発見がより可能になり、出産後の対応が困難と診断された場合には、上位病院への搬送が可能になった。また、手術灯の増設により、明るさが確保され、より正確な手術が可能となり、大出血時の止血操作が容易になった。陣痛時の胎児心音が簡便に測ることができた。緊急時の人工呼吸装置や、吸痰装置も使用され、母体の安全の確保と児の救命を可能にした。</p> <p>以上のことから下記の通りの成果を上げた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ティエンラン郡総合病院における妊産婦死亡数→0 名（別添 5） 2) ティエンラン郡総合病院における乳児死亡数→0 名
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>(ア) 当団体は、ティエンラン郡総合病院の設備・医療機器拡充支援事業実施において、当初からベトナム社会主義共和国保健省およびティエンラン郡総合病院による自立的な運営がなされることを意図しており、医薬品、消耗品の調達、医療機器の修理など、維持・管理については、本案件開始後、病院側が責任を持つ旨を MOU（覚書）として書面で交わし、事業終了後 3 年間は当団体が現地視察を行い、機器管理を行うこととする。</p> <p>(イ) ティエンラン郡唯一の総合病院として、ティエンラン郡総合病院がある。県内の他病院・出産施設に対してティエンラン郡総合病院は県内唯一の総合病院であり、救急車を配備したことにより、施設間の患者輸送はスムーズになると考える。本案件開始後から、県内他医療施設の医療スタッフにも研修への参加を促すなど、ティエンラン郡総合病院長から各医療施設に働きかけを行い、ティエンラン郡総合病院での研修を開始する。医師その他の医療スタッフ同士がコミュニケーションを取りやすい状況を作ることができ、その結果、協力関係を強化することができ、郡内には、多数の診療所があり、こういった医療施設からの紹介患者を受け入れる基盤が整うことが期待できる。このようなネットワークの構築は、以降の妊産婦の教育、乳幼児健診の充実等の基盤となり、地域の住人の健康管理に対する意識向上につながっていくことが期待できる。</p>